

■山東京伝(北尾政演)
さんとうきょうでん
・・・・・・1761＝

一流の浮世絵師かつ人気トップの戯作者となるも、<寛政の改革>で受難後も、文芸で時代を歩んだ。

江戸深川木場で、伊勢国の出身の質屋岩瀬伝左衛門信明の長子に生まれる。本名岩瀬醒，俗称京屋伝蔵。

忠臣蔵大当り1766＝ 5歳：妹きぬ誕生。

久留米藩工事1768＝ 7歳：父から貰った「巴山人印」を玩具として遊ぶ。
・・・・・・1769＝ 8歳：弟でのちの山東京山が誕生。御家人方に寺入り，この時父から貰った机を生涯愛用する。
・・・・・・1770＝ **9歳**：「孟子」を书写。_春信の絵本を喜び，赤本，青本，黒本類に親しむ。

御蔭参流行・1771＝10歳：妹よね誕生。

田沼意次老中1772＝11歳：

大原騒動・・・1773＝12歳：父が故あって養家を離れ，銀座に転居し，家主となる。

解体新書・・・1774＝13歳：この頃，長唄，三弦を学ぶ。

黄表紙始・・・1775＝14歳：この頃，_北尾重政に浮世絵を学び，

♫♫船蝦夷来 1778＝17歳：_黄表紙「開帳利益札遊合」の挿絵描いて出発し，
源内獄中死・1779＝**18歳**：遊里に通い，お菊を知る。盛んに読書し修養につとめ，さまざまな文芸の"会"に顔を出して交流，

・・・・・・1780＝19歳：_自画作の黄表紙で，作者山東京伝として登場，

・・・・・・1781＝20歳：_絵師として三位にランクされる。

天明大飢饉始1782＝21歳：お菊と親密になる。***「御存商売物」が大田南畝に認められて出世作となり，**
_絵師として，黄表紙挿絵，浮世絵，同志とまとめた「狂文宝合記」「たなぐひあわせ」「吾妻曲狂歌文庫」はじめ狂歌絵本をてがけ続けながら，
「江戸生艶気樺焼」が，主人公が自惚れ男の代名詞になるほどの大評判になって，恋川春町，朋誠堂喜三二
ら武士身分の作者を超える，黄表紙の中心作者となり，「息子部屋」以降，遊里が舞台の洒落本に進出。

田沼意次失脚1786＝25歳：「客衆肝照子」，

寛政改革始・1787＝26歳：***「通言総籙」「古契三娼」など，吉原の遊里生活体験による豊かな知識，人間性に富んだ温かくして鋭い観察**
，画家として鍛えられた精緻な写実手法等によって，量質ともに洒落本の第一人者となった。

・・・・・・1788＝**27歳**：創作が目立って多くなり，自活の姿勢が強まる。妹よねが死去。

初の横綱・・・1789＝28歳：***「黄表紙孔子篇于時藍染」ほか，最大の創作の年になるも，田沼一派の失脚に取材した黄表紙「黒白水鏡」が**
処罰の対象になり，作者石部琴好が手鎖の上江戸払いになるのに合わせて，過料を申し付けられ，
満期で退職したお菊と結婚。_黄表紙「心学早染草」など，江戸の流行を創り出すような存在にまでなるが，
風紀上好ましくない出版物に対する取締が強化されたことから，
混浴禁止・・・1791＝30歳：この年の自作の黄表紙以降は，絵師として退場したばかりでなく，「錦之裏」「娼妓絹口」「仕懸文庫」によっ
て，手鎖50日の刑に処せられる。以後，馬琴が寄食し，代作。洒落本の作を断つが，逆に，名が広まる。それ
までは，本業の余技として"潤筆(原稿料)"をとらずにいたため，筆を折ることを考えるも，版元らは，"
潤筆"を支払って執筆を続けさせようとするが，専業の作者になることを潔しとせず，

お菊が病死。書画会の収益を元手に，_銀座に，キセル・タバコ入れの店を開いて収入を上げることに努め
，改革後の戯作界の主導者たる地位は動かず，教訓的で屈辱ばった内容のものながら，黄表紙も多く書き，
そこに，店の宣伝文を入れるなど，したたかさも見せ，

昌平黷始・・・1797＝**36歳**：吉原に新たに入廓してきた玉の井と親密になる。

蝦夷地直轄始1799＝38歳：父が死去。_「忠臣水滸伝」は，中国文学と日本演劇とをとり合わせる江戸読本の嚆矢になった。

伊能測量始・1800＝39歳：玉の井を落籍して妻とし，以後遊里に行かない。玉の井の妹鶴を養女とする。

一九膝栗毛始1802＝41歳：画賛ものに多くの偽作が登場してきたことに対処，自署・実印無きものは偽作とする。

アメリカ船来航始1803＝42歳：伝法院開帳をあてこみ，菓子店を開業したが，失敗。

いざノ来航・ 1804＝43歳：母が死去。_時の流行にも順応し，この頃から仇討物なども書き出した。また，実学に志し，近世初期の文
化・風俗・人物等に関する考証随筆に自己の本領を見いだして，まず「近世奇跡考」を著す。さらに，合巻の
作者として活躍することになったが，

いざノ報復・ 1806＝**45歳**：大火で家を焼失。

♫♫船狼藉・ 1807＝46歳：養女鶴が死去。_この頃から，曲亭馬琴と競合関係になり，気が鬱して行く。
古伝説や歌舞伎浄瑠璃などではなやかに彩られた読本も書いたが，勸懲思想も徹底せず，緊密な長編構成の
用意にも欠けるところがあって，

・・・・・・1810＝49歳：**夫婦問題・恋愛問題で馬琴と論争，そのやり方に不快を感じ，ますます鬱する。**
浮世絵も政演としての豊麗な美人画や芝居絵から，晩年には京伝の本名による枯淡な肉筆風俗図のようなも
のが多くなっている。

浮世床・・・1813＝53歳：***「双蝶記」を最後に，読本における馬琴との抗争にも敗れ去った上，半身が痛む病となり，**

黒住教・・・1814＝**54歳**：_心臓も悪くなって，考証随筆の方で「骨董集」の完成に全力を傾注したが，未完に終わり，

伊能測量終・1816＝56歳：脚気衝心で_没した。